



---

それぞれの機能障害についての細かいこと

## 各論その1

(内部障害系：肢体不自由以外)



# 肝臓機能障害

- ◆ 1) Child-Pugh分類(肝臓機能障害の重症度)  
2) 臨床症状の項目数 で等級認定
- ◆ 3) その他の基準も忘れなく



# 肝臓機能障害

## ◆ 1) Child-Pugh分類

- ◆ 「肝性脳症」「腹水」「血清アルブミン値」「プロトロンビン時間」「血清総ビリルビン値」の5項目
- ◆ 「5項目の合計点数が7点以上（Grade B・C）」は手帳交付の必須条件
  - ◆ 1・2級については、「肝性脳症」or「腹水」を含む3項目以上が2点以上であることも要件
- ◆ これらが90日以上180日以内の間隔をおいた検査において連続2回以上続くこと



# 肝臓機能障害

## ◆ 2) 臨床症状

- ◆ 補完的な肝機能診断: 「血清総ビリルビン値高値」、「血中アンモニア濃度高値」、「血小板減少」
- ◆ 病歴: 「原発性肝がん」、「特発性細菌性腹膜炎」、「胃食道静脈瘤」、「B・C型肝炎ウイルスの持続的感染」
- ◆ ADL制限: 「倦怠感及び易疲労感」、「嘔吐・嘔気」、「有痛性筋けいれん」

- ◆ 5項目以上 1級
- ◆ 3項目以上 2級・3級 (※ADL制限のみは不可)
- ◆ 1項目以上 4級



# 肝臓機能障害

- ◆ 3) その他の基準
    - ◆ Child分類の検査は、次の2つの状況下で行われていることが条件
      - ◆ 180日以上アルコールを摂取していない
        - ◆ アルコール性肝障害に限らず必須条件
        - ◆ 患者申告に加えて病状の推移から医師が判断
      - ◆ 改善の可能性のある積極的治療を実施
        - ◆ 「積極的治療」とは「受診」「服薬」「生活上の管理」といった医師の指示も含むかなり幅広い概念
- ⇒非代償期であっても実施されてしかるべき内容



# 肝臓機能障害

- ◆ 例外) 肝移植術後
  - ◆ 術後の抗免疫療法を継続実施している間は無条件で1級
  
- ◆ 再認定
  - ◆ 初回認定においてChild-Pugh分類の5項目の合計点数が7-9点 (Grade B) の場合には、1-5年後に再認定を行う



# 肝臓機能障害

- ◆ よくある悩ましいケース
  - ◆ Child-Pugh分類の検査日が90日以上180日以内の間隔でない
    - ⇒90日以上180日以内の検査日のデータを示すよう照会する
  - ◆ 「改善の可能性のある積極的治療を実施」が「×」になっている
    - ⇒「改善の可能性のある積極的治療」の定義を改めて確認してもらうべく照会する